

# CASBEE®熊本《既存》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F	外観図(パース、写真等) 外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けてください。	
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人		
気候区分	地域区分V	年間使用時間	XXX 時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階			
竣工年	2011年12月	評価の実施日	2009年4月1日		
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇		
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	2009年4月2日		
延床面積	3,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇		

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点 **75**

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	75
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	75
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75
【重点事項4】 循環型社会の実現	75

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

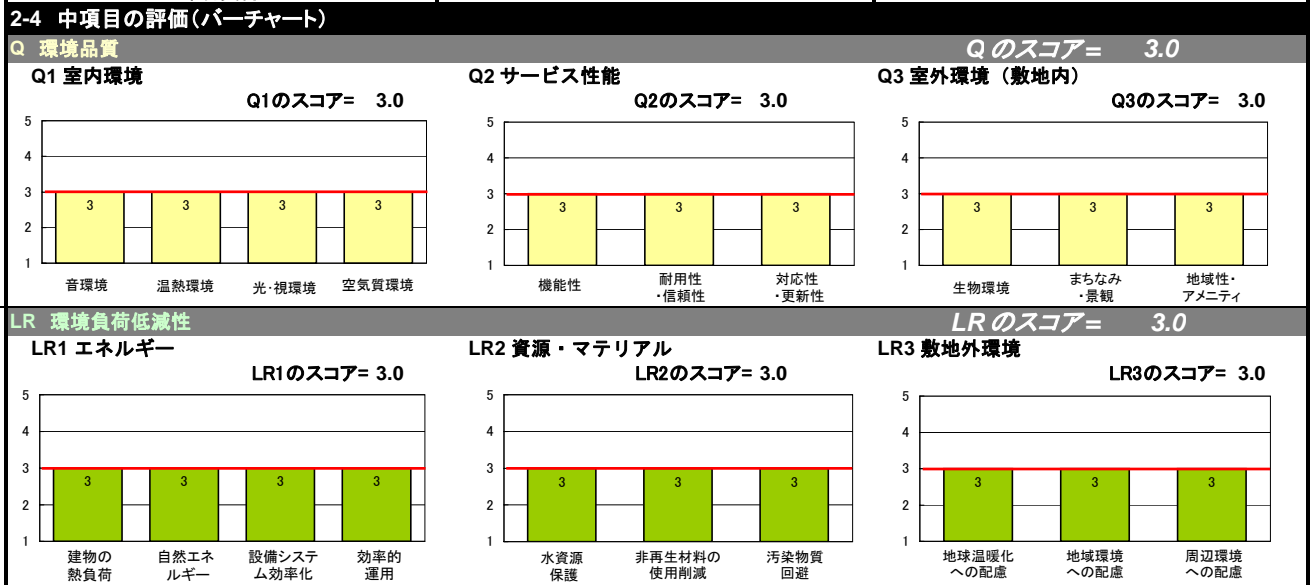
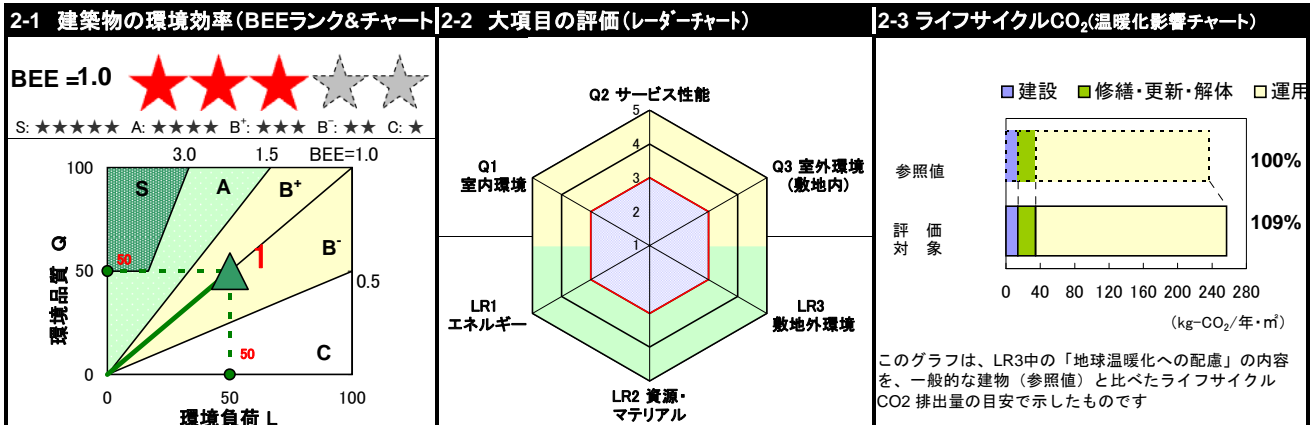
※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《既存》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-既存(簡易版)2009年版・使用評価ソフト：CASBEE-EBb\_2009(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2011年12月	評価の実施日	2009年4月1日
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	2009年4月2日
延床面積	3,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇

外観図(パース、写真等)  
外観図の貼り付けは、  
【外観図】シートへ貼り付けしてください。



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《既存》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

### Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### Q3 室外環境(敷地内)

注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

**CASBEE-既存(簡易版)2009年版**  
**QOビル**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-既存(簡易版)2009年版

■評価ソフト: CASBEE-EBb\_2009(v1.2)

スコアシート		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40			<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	<b>3.0</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 暗騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-	
2 等価騒音レベル		3.0	0.60	3.0	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・環境制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 上下温度差		-	-	-	-	
2 平均気流速		3.0	1.00	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
3.1 屋光利用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 屋光率		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 屋光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
1 照度		3.0	1.00	3.0	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	3.0	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	0.33	3.0	-	
2 アスベスト対策		3.0	0.33	3.0	-	
3 臭気対策		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		3.0	0.33	3.0	-	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4 換気評価		-	-	-	-	
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 総合的な取組み		3.0	0.50	-	-	
2 清掃管理業務		3.0	0.30	-	-	
3 衛生管理業務		3.0	0.20	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.31	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.25	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.25	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.16	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.25	-	-	

2.3 適切な更新	1	屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更新	3.0	0.25	-	-	-
	2	配管・配線材の更新	3.0	0.33	-	-	-
	3	主用設備機器の更新	3.0	0.33	-	-	-
	2.4 信頼性		3.0	0.25	-	-	-
	1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-	-
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-	-
	3 対応性・更新性		3.0	0.29	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり		3.0	0.31	-	-	-
	1	階高のゆとり	3.0	0.60	3.0	-	-
	2	空間の形状・自由さ	3.0	0.40	3.0	-	-
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0	-	-
	3.3 設備の更新性		3.0	0.38	-	-	-
	1	空調配管の更新性	3.0	0.17	-	-	-
	2	給排水管の更新性	3.0	0.17	-	-	-
	3	電気配線の更新性	3.0	0.11	-	-	-
	4	通信配線の更新性	3.0	0.11	-	-	-
	5	設備機器の更新性	3.0	0.22	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.22	-	-	-
	Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.0
	1 生物環境の保全		3.0	0.30	-	-	3.0
	2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.0	
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.0	
1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.30	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0	
2a 集合住宅以外		3.0	1.00	-	-	-	
2b 集合住宅		-	-	-	-	-	
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	-	-	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化		3.0	0.30	-	-	3.0	
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護		3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-	
1.2.1 雨水利用率		3.0	0.67	-	-	-	
1.2.2 雑排水等利用率		3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.63	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	-	
3.2.1 消火剤		3.0	0.33	-	-	-	
3.2.2 断熱材		3.0	0.33	-	-	-	
3.2.3 冷媒		3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0	
1 地球温暖化への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0	
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
2.3.1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-	
2.3.2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
2.3.3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	
3.1.1 騒音		3.0	0.33	-	-	-	
3.1.2 振動		3.0	0.33	-	-	-	
3.1.3 悪臭		3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害・日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	
3.2.1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	
3.2.2 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-	
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-	
3.3.2 屋上の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	

# 熊本県重点評価結果スコアシート

建物名称 **OOビル**

■評価ソフト: CASBEE-EBb\_2009(v1.2)\_kmt2010(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-熊本《既存》2010年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75.0
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				75.0	0.40	30.00
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				75.0	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				75.0	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				75.0	0.20	15.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

### ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

### ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数